



二〇一六年一月二十五日
発行

第99卷 第1号 史学・地理学・考古学

特集 家族

史学研究会

京都大学大学院文学研究科内

特集 家 族

特集「家族」に寄せて……………吉 井 秀 夫 (1)

論 説

家 族 の 肖 像……………栗 原 麻 子 (3)

—前四世紀アテナイにおける法制上のオイコスと世帯—

ある女性の告発をめぐって……………下 倉 渉 (39)

—岳麓書院藏秦簡「識劫姦案」に現れたる
奴隸および「舍人」「里單」—

古墳時代中期後葉・後期の親族構造再論……………清 家 章 (81)

北 政 所 考……………金 井 静 香 (101)

—中世社会における公家女性—

イギリス領西インド植民地における
「奴隸制改善」と奴隸の「結婚」問題……………並 河 葉 子 (146)

近代日本の産業地域形成期における
農家経済構造の変化……………湯 澤 規 子 (177)

—愛知県『農家経済調査』にみる農家の暮らし—

紹 介

高橋秀樹編『生活と文化の歴史学4 婚姻と教育』……………山 田 徹 (208)

2015年度史学研究大会講演要旨

2015年度史学研究学会大会・総会の記録

二〇一五年度

史学研究会大会・総会の記録

史学研究会の二〇一五年度大会・総会は、一月二日(月)一三時から一七時まで、京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールⅠ・Ⅱにおいて開催された。

総会では、永井和理事長による挨拶の後、江川温氏を司会に選出して、庶務・編集・会計・広報に関する報告・審議がなされた。庶務(久保一之常務理事)からは、役員の交代、その他について報告があり、来年度の例会について、四月一六日(土)「海」をテーマとして開催予定という案内があった。

編集(吉井秀夫常務理事)からは、『史林』の刊行について報告があった。

会計(上島亨常務理事)からは、二〇一四年度予算の紹介、その他の報告があった。広報(金澤周作常務理事)からは、広報関係について報告があった。

これに引き続き、公開講演が行われた。講演は次の二本であった。

新納 泉氏

「前方後円墳が語る(倭算)の世界」

松浦 茂氏

「二六八〇年代口清の衝突とネルチンスク講和会議——国境の画定について——」

講演者紹介と司会は、それぞれ吉井秀夫理事と杉山正明理事がつとめた。講演内容は本号に掲載されているので参照されたい。本年は約八〇名の参加者を得ることができた。

公開講演ののち、中砂明德理事が閉会の辞を述べ、会を終了した。

(文責 久保一之)

史学研究会会則

(二〇一〇年一月二日改正)

第一条 本会は史学研究会と称する。

第二条 本会の事務所を京都大学大学院文学研究科内に置く。

第三条 本会は広く歴史に関心を持つ者が集まり、史学・地理学・考古学に関する研究を行うことを目的とする。

第四条 本会の事業は次の通りである。

1. 総会・大会・例会等の会合

2. 会誌『史林』等の発行

第五条 本会に次の役員を置く。

理事長一名、理事一五名以上三五名以内

(内常務理事四名)、監事二名、評議員

四〇名以上六〇名以内、委員若干名

第六条 役員は理事会及び評議員会によって選出され、総会の承認を受けるものとする。理事長は本会を代表し、会務を統括し、会員総会、理事会及び評議員会を招集する。理事は理事会を構成し、会務を処理する。とくに常務理事は、庶務・編集・会計・広報の各事務を担当する。監事は会計経理を監査する。

第七条 委員は理事長より囑託され、編集・庶務の実務を分掌する。

第八条 役員の任期は、委員(任期一年)を除き、二年とする。但し、再任をさまたげない。

第九条 本会は第三条に掲げた目的に賛同する者をもって会員とする。会員は次の二種類とする。

1. 正会員 2. 学生会員

第十条 会員は会誌『史林』の配布を受け、かつこれに投稿し、また総会に参加することが出来る。

第十一条 会員は、退会届を事務局に提出し、任意に退会することが出来る。また、会員が次の各号のいずれかに該当する場合

合には、退会したものとみなす。

(1) 本人が死亡し、または会員である団体が消滅した時

(2) 会費を三年間納入しない時

第十二条 会員は、所定の会費一年分を前納するものとする。会費の納入を二年分怠った時、雑誌の送付を停止される。さらに一年間会費の納入を行わない場合、会員の資格を喪失する。

第十三条 会員が既に納入した会費は返還しない。ただし一年分を超えて前納している場合には、一年分を超える部分を返還する。

第十四条 毎年秋季に大会を開き、また適宜例会を開く。会場等はその度にこれを定める。

第十五条 毎年秋季において総会を開き、会務の報告を行ない、承認を受ける。

第十六条 本会の経費は会費、事業収入及び寄付金を以て支弁する。会費は誌代を以てこれにあてる。

第十七条 本会の会計年度は四月に始まり、翌年三月に終わる。

附則 本会則の変更は、会員総会の決議によるものとする。

但し会務執行に必要な細則及び物価変動に基づく会費金額の変更は理事会がこれを行う。

『史林』投稿規定

◇資格 本会会員であること。

◇投稿受付原稿の種類、長さ

論説 1 段組 54 字×19 行の体裁で、三二〇〇〇字以内

研究ノート 2 段組 29 字×20 行の体裁で、

二〇〇〇〇字以内

研究動向 2 段組 29 字×20 行の体裁で、三

二〇〇〇〇字以内

史料紹介 2 段組 29 字×20 行の体裁で、三

二〇〇〇〇字以内

書評・論文評 2 段組、八〇〇〇字以内

紹介 3 段組、一二〇〇〇字程度

◇原稿の種類を明示すること。

◇いずれにおいても、本文や注だけでなく

謝辞や図表・翻刻を含めて、それぞれの

紙幅に収めること。

◇注は各章末に入れること。

◇「欧文タイトル」を添付すること。

◇論説には「要約」(四〇〇字以内)を添付のこと。「要約」は上記の紙幅制限の

対象外とする。

◇論説および研究ノートの投稿者は、掲載が決定した時点で、「欧文要約」(六〇〇〜八〇〇語程度)を提出すること。なお、英文要約に限り、翻訳による作成依頼にも応じるが、経費は投稿者負担とする。

◇投稿に際しては、(1) プリントアウト一部もしくはPDFファイル、および

(2) 電子データを送付する。電子データに関する詳細は下記「補足」の〈電子データ作成要領〉を参照。電子データを準備できない場合は、あらかじめ事務局まで連絡すること。

◇図版を用いる場合は、下記「補足」の〈図版作成要領〉に従って作成、添付すること。

注意・編集委員会において、印刷技術上、図版の修正や特殊活字の作成を要すると判断し、これを業者に委託した場合には、その経費の一部、数千円〜数万円を負担していただきます。あらかじめご了解下さい。

送り先・史林編集委員会

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科内 史学研究会

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

『史林』投稿規定「補足」

〈電子データ添付要領〉

・電子データは、フロッピーディスク、CD-R、CD-RW、USBフラッシュメモリなどのメディアに保存して郵送することを原則とする。郵送に不便があるなどの事由で、メールによる投稿を希望する場合は、あらかじめ事務局に問い合わせること。

・本文の電子データは、マイクロソフト・ワード、一太郎、テキストファイルのいずれかの形式で保存し、保存形式（OSおよび使用ソフト）を明示すること。

・図版に電子データを使用する場合には、300dpi以上の解像度とする。ソフト（IllustratorやPhotoshopなど）やバージョンについて事前に照会・確認をすること。

〈図版作成要領〉

・本文原稿中に図版の割付箇所を注記すること。

・仕上寸法は、最大で170mm×110mm（キヤプシオン込み）とすること。

・図および写真は、仕上寸法の2倍（面積4倍）程度で作成し、希望縮尺率を明記すること。

・図は、トレーシングペーパーや製図用ケント紙などに製図用インキで明瞭に描くこと。その際、線の太さを一定に保つため、製図用ペンを使用することが望ましい。

・図中の文字は写真植字を用いて印刷するので、鉛筆書きするか、上にトレーシングペーパーを重ね該当箇所に文字のみを書き入れること。また、インスタントレタリングやワープロ文字を原図に貼り付ける場合は、仕上段階の鮮明度を配慮すること。

・写真は、原版が十分に鮮明でコントラストが明瞭なものを選ぶこと。なお、巻頭にアート紙で印刷することを希望する場合は、割付・仕上等は編集委員会調整する。その経費は投稿者負担とする。

・表は、仕上を配慮して、文字数や表現法を工夫すること。原表の掲載を希望する場合は、その旨を明記し、図版に準じた体裁を整えること。

注意・図表に不備がある場合は、投稿者に

修正を依頼するか、編集委員会が修正します（経費は投稿者負担となります）。

〈論文等の電子的公開について〉

・著者が論文等を任意のサーバーに、機関レポジトリ等を使って公表する場合は、以下の条件を満たすことを要する。この条件を満たす限りにおいて、本会への承諾はいは不要とする。

イ) 『史林』の版面をそのままPDFファイルなどにして公開する場合は、掲載誌刊行後、二年を経過していること。
ロ) 論文の出典を明らかにすること。
ハ) 営利目的でないこと。

(二〇一四年一月改定)

受贈誌

(二〇一五年一〇月三日)
二〇一五年一月一六日

藝林(藝林會) 六四—二

日本文学刊 JAPANESE STUDIES (中国社
会科学院日本研究所中華日本学会) 二〇

一五・四

オリエント(日本オリエント学会) 五八—

- 一
 信濃(信濃史学会) 六七—一〇
 史學研究(廣島史學研究会) 二八九
 歴史研究(大阪教育大学歴史学研究室) 五
 二
 茨城大学人文学部紀要社会科学論集(茨城
 大学人文学部) 五九
 茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション
 ション学科論集(茨城大学人文学部) 一
 八
 史學雜誌(史學會(東京大学文学部内))
 一二四—一九
 日本史研究(日本史研究会) 六三八
 駿台史學(駿台史学会) 五五
 立命館法學(立命館大学法学会) 三六一
 日本學士院紀要(日本學士院) 七〇—一
 日本歴史(日本歴史学会) 八一〇
 アジア研究所所報(亜細亜大学アジア研究
 所) 一六〇
 一橋研究(一橋大学大学院一橋研究編集委
 員会) 四〇—二(通卷一八二)
 法学家(中國人民大學) 二〇—一五—三
 米沢史学(米沢史学会) 三—
 人文地理(人文地理学会) 六七—四
 日本学刊 JAPANESE STUDIES(中国社

- 会科学院日本研究所中華日本学会) 二〇
 一五・五
 法学家(中國人民大學) 二〇—一五—四
 龍谷史壇(龍谷大学史学会) 一四〇
 神道宗教(神道宗教学会) 二三八・二三九
 日本民俗学(日本民俗学会) 二八三
 國家學會雜誌(國家学会事務所) 二二八—
 九・一〇
 立命館文學(立命館大学人文学会) 六四四
 史學雜誌(史學會(東京大学文学部内))
 一二四—一〇
 中央研究院 歴史語言研究所集刊(中央研
 究院歴史語言研究所) 八六—三
 CHRONOS クロノス(京都橘大学女性歴
 史文化研究所) 三七
 經濟學研究(九州大学經濟学会) 八二—
 經濟學研究(九州大学經濟学会) 八二—
 二・三合併号
 編 集 後 記

問題として取り上げられることが増えてい
 ます。私も勤務校で教員評価の仕事を担当
 しており、人文系の論文をいかに評価すべ
 きか喧々諤々の議論に頭を悩ませておりま
 す。来年一〇〇巻を迎える『史林』の學術
 雑誌としての価値を、分野の異なる研究者、
 そしてアカデミックな世界の外にいる人々
 にいかにも伝えることができるのか。研究者
 として、編集委員として、この大きすぎる
 課題に向かい合い、あがきながらも前に進
 む道を模索していきたいと思えます。
 (藤井翔)

◆史学研究会ホームページ・アドレス
<http://www.shigakukenhvukai.jp/index.html>

二〇一六年一月二五日印刷 定価二、〇〇〇円
 二〇一六年一月三日発行
 史 林 第九巻第一号(通算第五一五号)
 京都市左京区吉田本町京都大学大学院文学研究科内
 電話(〇七五) 七五三—二七八七
 FAX(〇七五) 七五三—二七八七
 発行人 史 学 研 究 会
 振替京都〇二〇七〇—二一五五番
 理事長 永 井 和
 印刷所 中村印刷株式会社
 京都市南区上葛畑段田二九

史学研究会例会のお知らせ

下記のとおり、史学研究会例会を開催いたします。多数ご来会くださいますよう、ご案内申し上げます。

日時 二〇一六年四月一六日（土） 午後一時～六時一五分

場所 京都大学文学部 新館第三講義室

テーマ 「海」

プログラム

開会挨拶 史学研究会理事長 永井和

趣旨説明

第一部（午後一時一五分～三時四〇分）

魚津知克 「海の古墳」 研究の意義、限界、展望」

君塚弘恭 「一八世紀フランスにおける沿岸貿易船の船長たち」

東 幸代 「近世の水辺村落と幕藩領主」

第二部（午後四時～五時三五分）

村上 衛 「清末西江の「海賊」

吹戸真実 「第二次台湾海峡危機とアメリカ合衆国の台湾政策」

質疑および討論（午後五時三五分～六時五分）

閉会の挨拶 上島 享

※終了後、懇親会を予定しております。奮ってご参加ください。（午後六時三〇分～午後八時、参加費一般一〇〇〇円・学生五〇〇円、予約不要）

史学研究会

Special Issue
FAMILY

YOSHI Hideo, Foreword (1)

Articles :

- KURIHARA Asako, Between Descent and Household: Portraits of Families in 4th Century Athenian Forensic Speeches (3)
- SHIMOKURA Wataru, On the Claim of a Woman: Slaves, *She ren* 舍人, and *Li dan* 里单 Appearing on the *Shi jie Wan an* 識劫媿案 of the *Qin Bamboo Slips Kept in Yue Lu Academy* 岳麓書院藏秦簡 (39)
- SEIKE Akira, A Study of the Change in Kinship Relations from the Middle-Kofun Period to Late-Kofun Period in Japan (81)
- KANAI Shizuka, *Kitanomandokoro*: A Study of Noblewomen in Medieval Society (101)
- NAMIKAWA Yoko, The Amelioration of Slavery and Marriage of Slaves in the British West Indian Colonies (146)
- YUZAWA Noriko, Changes in the Economic Structure of Farm Households in the Period of the Formation of Industrial Regions in Modern Japan: The Livelihood of Farmers as seen in the *Economic Survey of Farm Households* by Aichi Prefecture (177)

Miscellaneous :

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XCIX No. 1

January 2016

Special Issue

FAMILY

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan

定価 2,000円(税込)

ISSN 0386-9369